

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

Email : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

私が三條別院に初めてお参りしたのは得度の
考查の時でした。

小学校五年の時でしたので、別院や得度のこ
とは今ひとつ分かっていませんでした。以来、
大谷大学と大学院を修了して一般企業に勤め、
自坊に戻るまで別院とは全く接点の無い生活を
しておりました。

そんな私が別院に通うきっかけになったのは
教化センターの募集案内。住職から勧められ、
「月に二回なら通えるか」と思い、申し込みを
しました。

しかし、それまでお聖教をあまり開かなかつ
た私にとって学びの場は不慣れ極まりないもの
でした。

それでも教化センターに通う内に様々な研修
会や部会からお声掛けを頂き、三條別院に通う
ようになりました。書道教室も立ち上げ時から
通っています。

私の場合、あまり考えずに何かを始めてしま
う悪い癖があるのですが、鑑みるに、物事とい
うのは最初は軽い気持ちであっても「まず初め
てみる」という気持ちが大切ではないかと思
います。

そういう意味では別院へ足を運ぶ契機となる

のも、必ずしも法要や法話会などでなくとも良
いのかも知れません。

『入り口遊び、出口文化』という言葉があり
ます。最終的に文化に領いてくれれば、最初の
第一歩は「お遊び」でも良い、という事です。
仏法においても、まずはきっかけを作る。その
中で「お寺っていいよね」とほんの少しでも感
じて頂ければ良いのではないのでしょうか。

吉崎御坊が大変賑わっていたのは、仏法聴聞
よりも歌や踊りが面白かったからだ、という説
もあります。電車に例えるなら、脱線したり、
あるいは脇線から本線に合流して目的地に進む
方が旅は面白いものです。

御坊市をはじめ、別院ではお寺に「縁の少な
い人に向けても様々な取り組みがなされており
ます。そこにはまずは足を運び、知らず知らず手
が合わさっていく。正に『入り口遊び、出口合
掌』とでも言える在り方は、弥陀の方便によつ
て本願に遭遇するという真宗のこころを顕わして
いるのではないのでしょうか。

第十二組浄照寺 小林 智光氏

○次回の「三條別院に想う」は、

中富正純氏(第十二組福照寺)より

ご執筆いただきます。

春 彼岸 会 の 一 案 内

春彼岸会を左記の通り厳修いたします。有縁の
方々をお誘いあわせの上、是非ご参詣下さい。

◇期 日 三月十七日(木)～十九日(土)
◇日程および法話講師

十七日(木)

午後一時三十分より速夜法要

法話 多田 誓 氏(第十組 専徳寺)

「大谷派の声明と莊嚴について」

十八日(金) 午前十時より永代経総経

法話 北島栄誠氏(第十一組長福寺)

「わたしが救われるということ。」

お斎(正午)

午後一時三十分より速夜法要

法話 ひき続き 北島栄誠 氏

「わたしに出来ること。」

―東日本大震災復興支援について―

十九日(土) 午前十時より日中法要

法話 白鳥 賢氏(第十五組本龍寺)

「仏花と莊嚴について」

①今年の春彼岸は「莊嚴」をテーマに、大谷派の声明につ
いて多田氏よりお話しいただきます。また、三月十四日開
催の春彼岸に向けての立花講堂講師の白鳥氏に仏花につ
いてお話をいただきます。

②十八日の午後から、教区災害支援実行委員である北島氏
より、東日本大震災復興支援についてお話しいただきます。

③十八日正午に、お斎を賞加金二千円にて、「用意いたし
ます。」希望の方は三月十四日(日)までにご連絡下さい。

④春彼岸に先立ち、三月十一日(金)午後二時四十六分(東
日本大震災発生時刻)に勿忘(わすれな)の鐘を撞きます。

立花講習会のご案内

別院春彼岸会の仏花を参加者とともに立てる、立花講習会を開催いたします。普通寺院の立花にも応用できる内容になっておりますので、ぜひご参加下さい。

◇開催日 三月十四日(月) 午前九時より

◇講師 白鳥 賢、風巻和人、長尾豊隆、巨谷 学、福田 学、井上知法、(敬称略)

※詳細は案内チラシをご覧ください。

第二十三組 三条別院巡回報告

二月九日、阿賀野市コミュニティーセンター「瓢湖憩の家」にて第二十三組三条別院巡回が行われ、御本尊阿弥陀如来の御絵像と共に、職員が巡回させていただきました。

第二十三組においては、一昨年の宗祖真向の御影巡回(御遠忌讃仰事業)を含め、九回目の開催となりましたが、今年も門徒会・推進員を中心に、雪の降る中、多数のご参詣をいただきました。

このたびは職員の齋木がお話させていただきました。「浄土宗のひとは愚者になりて往生す」とい



う『末燈鈔』の言葉を中心に、真宗の教えに照らされると、私たちが先入観をもたずには生きられない愚者として知られるという趣旨の話と、別院巡回ということ、三条別院の紹介をさせていただきました。 「愚者になるのです」と語りながらも、常に「賢者」の立場に立とうとしてしまう自分自身について、法話を終えて、いまなお考えさせられています。

三条別院から遠く離れた会所にてお話をさせていただき、このような機会を一つひとつ大切にしていきたいと考えております。(齋木)

第十九組改観寺雑巾講体験記

二月二十二日、第十九組改観寺にて雑巾講が行われました。昨年十月に行われた別院での雑巾贈呈式の際に法話をさせていただいた縁で、今回実際に雑巾を縫うこの集まりに参加させていただきました。三十名程の参加者の皆さんはすごい勢いで針と糸をすすめていきますが、私は時間内に一枚の雑巾を縫うのがやっと……。体験してみても、普段清掃等で何気なく使用している一枚の雑巾の「重み」を感じさせられました。雑巾講では、二胡の演奏や四国出身の御当院による讃岐うどんのふるまいもあり(裏方のお手伝いもさせていただきました)、終始楽しい一日でした。



(藤井)

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◇日時 三月二十八日(月) 午前十時より

◇会場 三条別院 本堂

◇お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句且下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

中島 義紘氏(第十一組願興寺衆徒)

— 『歎異抄』に聞く【第三章】 —

◆一月の御命日のつどいより、『歎異抄』に聞くという内容

で、第一章から順に、それをテーマに法話頂いております。



◇今後の講師一覧

四月 小林智光氏(第十二組浄照寺)【第四章】

五月 池田 陽氏(第十八組長周寺)【第五章】

六月 朝倉 奏氏(第二十組金寶寺)【第六章】

定 例 法 話 会

毎月十三日の前門首の（命日）（両度の命日）に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。

◇日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より（二時間程度）

◇場 所 三条別院 旧御堂

◇講 師

二月～四月 齊藤 研氏

（第十五組正樂寺）

「総序に学ぶ～真宗入門～」

◆親鸞聖人が著された『教行信証』の総序についての「法話」です。



五月・六月 村山教二氏（第十一組願興寺）

七月 松岡誠一氏（仏像文化財工房）

「親鸞聖人御木像調査について」

◆二〇〇八年から二〇二五年にかけて行われた宗祖親鸞聖人御木像調査について、担当委員の村山教二氏と、新潟日報の連載記事でもおなじみの松岡誠一氏にお話しいただきます。

そ の 他 の 講 座 案 内

○別院声明教室（全五回・途中参加可能）

（月一回、午後六時～八時）

二月十八日（木）〔済〕、三月十七日（木）

四月二十一日（木）、五月十九（木）、六月十六日（木）



講習内容 真宗大谷派勤行集赤本
講師 長田 暢氏（第十六組 善興寺）
参加費 五〇〇円/回

○別院書道教室

〔月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕
講師 木原光威氏（新潟県書道協会理事）
月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）

随 時 募 集 中

○三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、開法会を開催しませんか？

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代（昼・夕食は業者発注）

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○三条別院有志の会

もともと三条別院のお朝事にお参りしている（門徒からはじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。参加希望の方は、ぜひ別院までご連絡ください。

○庭講（清掃講）

二月は芽吹ききの春に向け庭木の調査をはじめました。さらに多くのみなさんと一緒に活動したいと現在講員大募集中です。



ぜひ、御一緒に清掃奉仕と十三日の定例法話の聴聞をしませんか。講員一同、心からお待ちしております！

◆◆編集後記◆◆

一月二十三日・二十四日の両日三条真宗学院の同窓生十一名で本山奉仕団に行って来ました。久しぶりに同朋会館に泊まり、充実した二日間でありました。が、二十四日は長岡を中心とした大雪。皆さんの帰りの足はメチャクチャ。私も飛行機がダメで新幹線。それならばと、覚悟を決めて？新幹線の中で飲み始めたのが、長い体調不良のはじまりでした。風邪が長引き二月十一日・十二日の職員研修旅行も参加できず、十八日には、転べばバツタリ糞の上（都合の悪いことは重ねて生起するの譬え）インフルエンザで三十九度を超す発熱。私だけでなく、別院の職員・教務所の職員数名も風邪に罹患してしまいました。こういう場合、人は（私は）自分のせいであろうと思った、とは思いません。原因を他の者に求めます。菌を持つてきたのは誰々であるとか言って、自分に原因があるとは思いたくないのです。

高熱の中でトロトロとそんなことを考えたり、溜ってしまった仕事をどうやって片づけようか悩んだりして、二月が過ぎてしまいました。

別院の二月は比較的業務量が少ないので、職員から「別院の黄金月間」と呼ばれています。が、とんだ私の「黄金月間」でありました。

（有坂）